

2020年1月22日

各位

オリックス自動車株式会社  
北九州市交通局

## 北九州市営バスの安全運行強化に向けた実証実験を開始 ～最新技術を活用し、高齢ドライバー見守りシステムを構築～

オリックス自動車株式会社（本社：東京都港区、社長：上谷内 祐二）と北九州市交通局は、このたび「バス安全運行強化に向けた共同実証実験基本協定」を締結し、2020年2月上旬から2021年1月下旬まで<sup>(※1)</sup>、「AI等を活用した高齢ドライバー見守りシステム」の構築に向けた実証実験を行いますのでお知らせします。公営交通バス事業者においてAIなど最新技術の活用により、ヒューマンリスクによる交通事故を未然防止・軽減させる取り組みは全国初となります<sup>(※2)</sup>。

本実証実験では、北九州市営バスの車両に当社のテレマティクスサービス「e-テレマ」と、Nauto社提供のAI搭載通信型ドライブレコーダー「ナウト」を導入します。「e-テレマ」は、車両の運行状況や危険挙動（速度超過・急加速・急減速）を可視化、「ナウト」はわき見や車間距離不足などを検知してリアルタイムで警告を発し、運転者の安全運転をサポートします。

北九州市営バスでは、大型自動車運転二種免許保有者の減少などの影響で、バス運転者の約45%が60歳以上と、高齢化が進んでいます。運転者の高齢化は、運転時の判断力・操作能力の低下のリスクを抱えており、バス運行の安全性や事業そのものの存続に関わる重大な課題となっています。

本実証実験では、運行車両の動向や運転者の運転状況を、最新技術を通じて可視化し、それにより得られたデータを基に「北九州市営バス版安全運転支援システム」を構築します。そして、各運転者の特性に合わせた研修プログラムの設計など独自の安全運転指導に活用することで、高齢社会においてもバスの安全運行を継続していくことを目的としています。

オリックス自動車と北九州市交通局は、今後もお客さまや地域社会にとって役立つサービスをご提供してまいります。

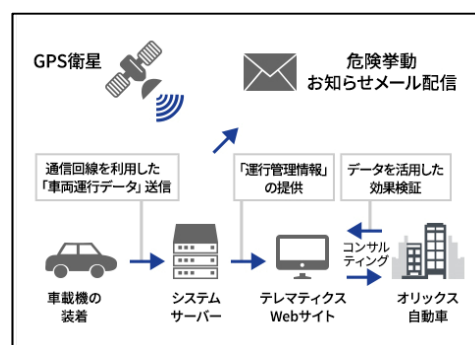


※1 実証期間は予定です。

※2 北九州市交通局調べ

## ■テレマティクスサービス「e-テレマ」について

2006年より法人向けに提供を開始し、約2,300社、158,000台の車両に導入されています（2019年9月末時点）。車両に通信とGPS機能を備えた車載機を搭載し、危険挙動（速度超過・急加速・急減速）や燃費などの情報をリアルタイムに取得します。それら運行データの分析により、企業の車両運行管理における「コンプライアンス」「安全」「環境」面での課題を可視化し、ドライバーの適切な労務管理、事故の未然防止などについてコンサルティングサービスによりサポートしています。



## ■AI（人工知能）搭載通信型ドライブレコーダー「ナウト」について

AIおよび通信機能を備えた二つの高性能小型カメラが車内外で発生する事象を検出・録画し、運転の危険度をリアルタイムに分析、運転者に警告音など危険を知らせるドライブレコーダーです。車外の映像記録に加え、運転中のスマートフォン使用などによるわき見や居眠り、車間距離不足などを検知して警告音を発することで、運転者の安全運転をサポートします。

以上

<本件に関するお問い合わせ先>

オリックス株式会社 グループ広報・渉外部 藤原・前田 TEL：03-3435-3167

北九州市交通局 営業推進課 本村 TEL：093-771-8410